

■ランチョンセミナー 1 (LS1)

日時：9月7日(日) 12:20～13:20

会場：A会場(会議場1階 メインホール)

座長：美島 健二 (JOB 編集委員長、昭医大 歯 口腔病態診断 口腔病理)

「Journal of Oral Biosciences教育講演」

LS1 「システマティックレビューとメタアナリシスの基礎」

井上 永介¹

(¹ 昭医大 統括研究推進センター)

システマティックレビューとメタアナリシスは、複数の研究結果を体系的に収集・統合し、全体としての傾向や効果を評価するための科学的手法である。エビデンスに基づく医療 (EBM) が重視される今日、これらの手法は臨床ガイドラインの作成や保健医療政策の根拠として広く活用されており、医療従事者や研究者にとって不可欠な知識となっている。一方で、システマティックレビューおよびメタアナリシスに基づく論文を正しく理解し、臨床や研究の意思決定に活用するためには、基本的な構成や方法論に関する理解が求められる。

本セミナーでは、これらの手法を「実施する」こと

ではなく、「読む・評価する」ことを主眼とし、研究課題の設定に用いられるPICO、文献検索戦略の妥当性、研究選定の基準、バイアスと研究の質の評価方法など、システマティックレビューの構成要素を順を追って解説する。また、メタアナリシスにおいて頻用される効果量 (オッズ比、リスク比、平均差など) の読み方、統合の方法、異質性 (heterogeneity) の概念とその評価方法にも触れる。さらに、「統合すべきでない研究が含まれていないか」「統合してはならないほどの異質性が存在していないか」といった、論文の信頼性や妥当性を見極めるうえで重要となる批判的視点についても紹介する。

■ランチョンセミナー 2 (LS2)

日時：9月7日(日) 12:20～13:20

会場：C会場(会議場2階 国際会議室)

座長：臼井 通彦 (九歯大 歯周)

「ウェルテック協賛 ランチョンセミナー」

LS2 「基礎医学的視点から洗口液を考える」

佐藤 毅¹

(¹ 九歯大 歯科衛生士育成)

手指などの皮膚や口腔粘膜に使用される消毒薬は多くの種類があるが、口腔粘膜に用いられる消毒薬である洗口液について焦点を当てる。洗口液には、基材、殺菌剤、香味剤、保存剤などさまざまな成分が含まれている。殺菌・消毒作用の成分としては、イオン系あるいは非イオン系の消毒剤が配合されている。細菌の表面は陰イオンに帯電しており、口腔内ではバイオフィルムを形成している。イオン系消毒剤は、陽イオン性界面活性剤あるいは陽イオン性化合物などが用いられ、歯面やバイオフィルム表面に付着して作用する。

陽イオンを持つ原子団が菌体表面の陰イオン部分に吸着し、細胞内に浸透して細胞膜の構造を破壊する。一方で、非イオン性消毒剤は、ヨウ素系あるいは植物由来の有機化合物などが用いられ、歯面やバイオフィルム表面への付着は弱いバイオフィルムに浸透して殺菌作用を有する。この他、殺菌作用はないが、抗炎症作用を有する成分が含まれている洗口液がある。本セミナーでは、配合される成分に着目し、洗口液によってどのような違いがあるのかについて基礎医学的視点から考えてみたい。